(ID　0　) ☆7

治療計画書

療法名　DLd　療法　1サイクル 4 週

疾患名　再発又は難治性の多発性骨髄腫（7サイクル目以降）

注射		商品名	用量(/回)	投与ルート	投与時間	1							2							3							4						
内服	Rp		用量(/日)	用法		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
放射線		照射部位	照射量																													
注射	1	生理食塩液	250 ml	点滴	キープ	●																										
注射	2	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	キープ	●																										
注射	3	ダラザレックス	16 mg/kg	点滴(側管)	フローシートに従う	●																										
		生理食塩液	500 ml	全量500mLに調製																												
注射	4	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	ルートフラッシュ	●																										
注射	5																															
注射	6																															
注射	7																															
注射	8																															
注射	9																															
注射	10																															
内服	1	レナデックス	20 mg	ダラザレックス投与1-3時間前		●																										
内服	2	レナデックス	20 mg	1日1回朝食後			●																									
内服	3	レナデックス	40 mg	1日1回朝食後									●							●							●						
内服	4	ネオマレルミンTR	6 mg	ダラザレックス投与1-3時間前		●																										
内服	5	カロナール	1000 mg	ダラザレックス投与1-3時間前		●																										
内服	6	レブラミド	25 mg	1日1回就寝前		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
内服	7																															
放射線			Gy																													

特記事項

・インフュージョンリアクションGrade1～3の出現時はダラザレックスの投与を中断し、回復した場合には出現時の半分以下の速度で投与を再開できる。Grade 3のインフュージョンリアクションが3回出現した場合およびGrade 4のインフュージョンリアクションが出現した場合は、ダラザレックスの投与を中止する。
・レブラミドはクレアチニンクリアランス（CrCL）＞60mL/分を超える患者には25mgを、CrCLが30～60mL/分の患者には10mgを各サイクルのDay1からDay21まで経口投与する。毒性に応じて15mg、10mg、5mgに減量する。
・75歳を超える又は過小体重（BMI：18.5kg/m2未満）の患者には、レナデックスを20mg/週で投与してもよい。

減量規定

薬品名	レブラミド				
標準投与量	25 mg				
1段階減量	15 mg				
2段階減量	10 mg				
3段階減量	5 mg				